

地域福祉に関するアンケートと関係する
他部局実施のアンケート等調査結果(一部抜粋)

1 令和4年度仙台市障害者等保健福祉基礎調査 ヒアリング調査報告（健康福祉局障害企画課）

【調査対象】障害者及び障害者の家族(14 団体、62 名)※一部抜粋

【調査方法】

障害者及び障害者の家族に対しては、対面やオンラインによる聴き取りを実施した。

ヒアリング項目はあらかじめ大まかな質問内容を決めておき、回答内容によって更に詳細に尋ねていく半構造化インタビューとした。

(1)身体障害のある方 仙台市障害者福祉協会推薦 当事者 8 名

質問事項	意見
住まいと暮らしについて	他の方が利用しているようなボランティアへの依頼の仕方を知らない。 生活に必要な情報をどこに行けばもらえるのかが分からない。
権利擁護に関すること	●町内会の清掃活動等、可能な範囲で参加を続けており、最近では町内会の方が駐車場に融雪剤を撒いてくれるようになった。そのようなことがあり、障害者も可能な限りが外に出ていくべきと感じている。 ●町内会の防災訓練に積極的に参加をして、顔を覚えてもらったことにより、町内会でバリアフリーの工事をしてくれたことがある。地域で自身の存在を認識してもらうことは重要だと思う。
災害等の緊急時について	自身は災害時要援護者情報登録制度について、行政を通じて町内会長・民生委員との繋がりができたので、このような制度は有効だと感じた。
社会参加について	●バリアフリーが進んでいるような風潮はあるが、障害者が自由に宿泊し遊べるような施設は限られており、障害者の選択肢は制限されている。 ●電動車いすで歩道を移動する際に狭かったり、障害物があるため、一旦車道に出なければならない時があり、不便を感じることもある。

(2)精神障害のある方 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会推薦 当事者 5 名

質問事項	意見
住まいと暮らしについて	●自分なりに頑張って工夫して生活が成り立つようにしているが、周囲に頑張っていることを理解されづらいと感じる。 ●暮らして楽しいと感じることはほとんどない。サポートセンターに行って人と触れ合う時に少しは楽しいと感じるが、合う、合わないがある。
権利擁護に関すること	発達障害・精神障害で困っているという話をすると、「自分も体調が悪かったりすると生きづらさがあるから、君も頑張れば発達障害、精神障害じゃない」といった理解のされ方、「君が辛いのは分かるから一緒に頑張ろう」という感じの共感の仕方で頑張らせようというのが家族間や職場内であり、困っている。

(3)知的障害のある方 仙台市知的障害者関係団体連絡協議会推薦 当事者 5 名

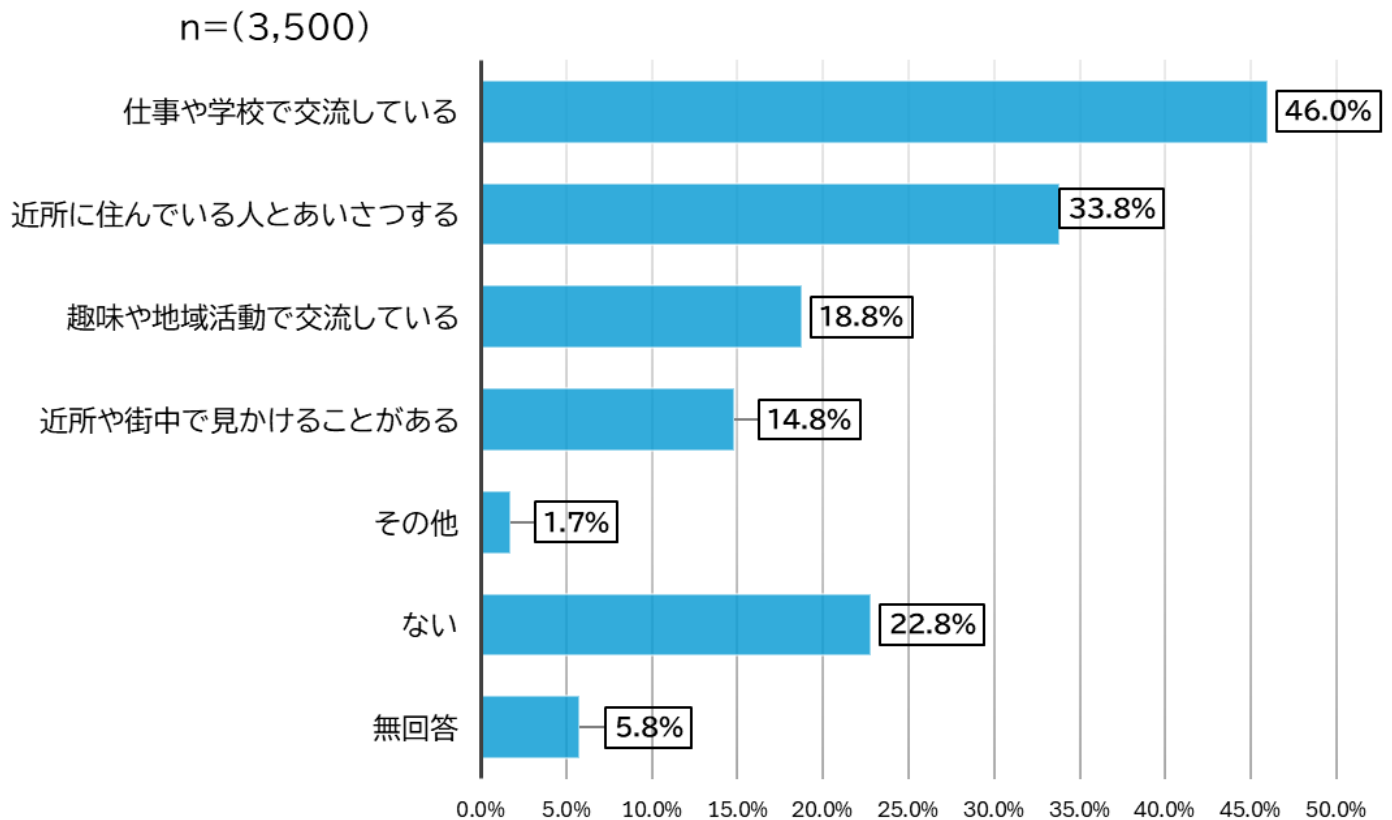
質問事項	意見
住まいと暮らしについて	近所との交流はあいさつ程度だと思う。地域柄、高齢者が多いためか、コロナ禍の前から皆で交流できるようなイベントの開催等は少ない。

2 令和7年度外国人住民実態調査(まちづくり政策局ダイバーシティ推進課)

【調査対象】令和7年5月1日時点で仙台市在住の 16 歳以上の外国籍住民 16,640 人、有効回収数:3,500 票、有効回収率:21.5%

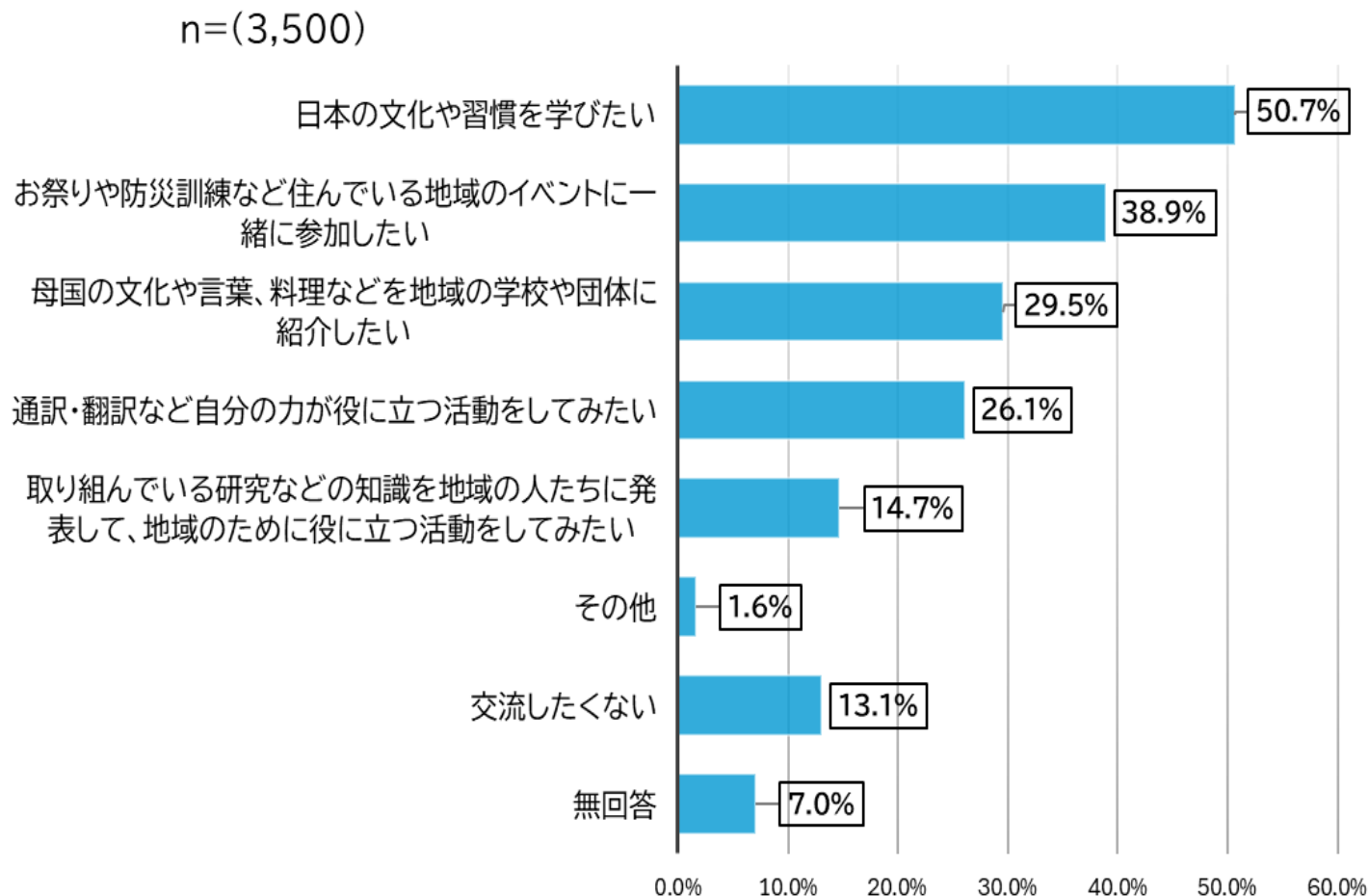
(1)地域に住んでいる日本人と日頃どのように交流していますか。(複数回答)

○「仕事や学校で交流している」が 46.0%で最も多く、次いで「近所に住んでいる人とあいさつする」が 33.8%、「ない」が 22.8%となっている。



(2)地域の学校や団体とどのような交流をしてみたいですか。(複数回答・3つまで)

○「日本の文化や習慣を学びたい」が 50.7%で最も多く、次いで「お祭りや防災訓練など住んでいる地域のイベントと一緒に参加したい」が 38.9%、「母国の文化や言葉、料理などを地域の学校や団体に紹介したい」が 29.5%となっている。



(3)地域の学校や団体と交流していない理由や困っていることはありますか。(複数回答3つまで)

○「どのような機会があるのか知らない」が 39.9%で最も多く、次いで「言葉が通じるか不安がある」が 27.0%、「時間がなく交流できない」が 24.4%となっている。

